

残夏

すだれ越しに輝く木々の葉

(停止した思考が眠っている)

手前に迫り出すほどの青空と
破った和紙のような白い雲
小さな蝶がジグザグに舞う
それを追いかける猫

流れているものを探してみる
時間
雲
涙

(透き通った涙が許されている)

ふと陽が陰る
新たな季節の影から
湿った微風が忍び込んでくる
没落へと引き寄せる極細の糸

(怖れることはない)

暑熱と涼気を
強引に攪拌した大気
何も答えず、何も語らぬ雲
しかし、そこに居る雲

(無意志の中で滅びること)

ただ生きていくこと
自分自身だけでなく
あらゆる者たちが
ただ生きていくこと

(その掌をください)

(2012.9.15)